


提出 順番	No. 9	令和 5 年 11 月 24 日 午前・午後 3 時 50 分受領
----------	----------	--------------------------------------

令和 5 年 11 月 24 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 酒井 はやみ 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
女性の経済的自立に向けた支援を	<p>ジェンダー平等はこの数年で、歴史的とも言える変化が起こっています。男女の賃金格差の解消に向けて、格差を企業に公開させる制度が実現しました。また、性暴力根絶に向けて刑法が改正され、不同意性交等罪が創設されました。パートナーシップ制度のある自治体は人口の7割に達しました。同性婚、選択的夫婦別姓を求める運動、多様な性を認め合う社会に向けた動きが大きな流れとなっています。生理の貧困を解決する取組や、経口中絶薬の承認なども進んでいます。</p> <p>しかし、いまだ日本の「ジェンダーギャップ指数」は146か国中125位と低く、世界から大きく遅れています。その大きな要因は政治分野での遅れとともに、経済分野での遅れです。非正規雇用の拡大を背景にした1億円とも言われる生涯賃金の格差がDVや女性差別、女性の貧困の土台ともなっています。</p> <p>現在、女性の就労の増加と社会進出が進み、家族の形も多様化するもとので、女性の意識は大きく変わっています。多くの方が仕事や社会生活と家庭、個人の生活を両立できる社会を願い、ジェンダー平等に強い関心を持っています。</p> <p>だれもが自分らしさを発揮できるジェンダー平等社会に向け、町が男女の賃金格差の是正、女性の貧困解決にむけて、役割を発揮することが求められており、以下の点を伺います。</p>

	<p>1 町の会計年度任用職員の8割以上が女性です。会計年度任用職員の待遇改善を求める声と運動が全国で起こり、改善に着手する動きも生まれています。</p> <p>(1) 同職種間での、正職員と会計年度任用職員（フルタイム、パートタイムそれぞれ）との年収の差は。</p> <p>(2) 勤続5年、10年を超えている職員数は。</p> <p>(3) 不安定で低賃金の雇用である会計年度任用職員の実態は、ジェンダー平等の障害となっています。専門職からでも無期雇用へ転換する、パートとフルタイムの処遇格差を是正するなど改善を急ぐべきでは。</p> <p>(4) 来年度から会計年度任用職員への勤勉手当の支給が可能となりました。実施すべきと考えますが町の考えは。</p> <p>2 ひとり親世帯の半数近くが貧困状態にあるとされます。その背景には、特にシングルマザーの28.1%（2021年度の厚生労働省の調査）しか養育費を受け取れていないという問題があります。そもそも51.2%が養育費の取り決めをしていません。養育費の立替え払い制度や、養育費が確実に支払われる支援を検討する考えは。</p> <p>3 シングルマザーのみならず、特に単身女性の貧困が深刻化しています。</p> <p>(1) 町の単身女性の貧困率などの実態調査をすべきでは。</p> <p>(2) 中高年単身女性の様々な困難について、低収入者への家賃補助、入院・入所時に必要な身元保証等のサポート、アクセスしやすい相談機関の設置など、支援が必要だと考えますが、町の考えは。</p>
--	--

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。